

東京23区が
見える。わかる。

2020 WINTER

Vol.39

ワンツースリー One23

公益財団法人特別区協議会 特別区自治情報・交流センター発行の東京23区情報誌

特集 各区の歴史や 文化を知ろう!

■各区の歴史や文化を知ろう!

墨田区…すみだ郷土文化資料館

世田谷区…郷土資料館

台東区…下町風俗資料館

中央区…タイムドーム明石(郷土天文館)

千代田区…日比谷図書文化館

豊島区…郷土資料館

■クマなくさんぽ

…勝海舟の想いと地域の歴史を伝える。

大田区立 勝海舟記念館

■所蔵資料蔵出し

…「父 渋沢栄一 上下巻」

もっと活用しよう!

特別区自治情報

こんなことしたよ

東京都公文書館パネル展示「首都東京の歴史的景観Ⅱ」

公益財団法人特別区協議会・東京都公文書館との共催によるパネル展示「首都東京の歴史的景観Ⅱ」を令和元年11月12日(火)～12月21日(土)にわたり、東京区政会館1階にて開催しました。

天下の城下町江戸から日本の首都東京へ、400年を超える巨大都市の形成と発展は、数多くの歴史的景観を創出してきました。今回の展示では、建造物や庭園、橋などのインフラ施設、そしてその背景にある自然景観も含めて、東京固有の歴史と文化を語る魅力ある歴史的景観やこれらの景観を継承し調和のある都市のすがたを未来に伝えていく取り組みについて紹介しました。

また会場内床面では、隅田川と荒川にかかる橋梁について地図を通して紹介しました。

特別区協議会では引き続き、東京区政会館1階エントランスホールを活用した企画展示を開催いたします。皆様のご来館お待ちしております。



展示会場外観



展示会場の様子①



展示会場の様子②

こんなことしたよ

「茨城ふるさとフェア」



「茨城ふるさとフェア」を令和元年10月17日(木)に東京区政会館1階オープンスペースにて実施しました。本イベントは、茨城県の魅力発信と東京23区との交流を目的として実施したもので、当日は、茨城県6自治体と茨城県のアンテナショップ「イバラキセンス」が店出し、特産品や物産品の販売、観光情報などのPRを行い、大変賑わいました。

キッチンカーでは、茨城県の名産である焼鯖寿司やしらす丼等を販売し、昼頃には長い行列ができていました。

このイベントを通じて多くの方に茨城県の魅力を感じていただければ幸いです。

なお、台風19号で被災した常陸太田市、常陸大宮市の参加が叶わなくなったため被災状況のお知らせと、パンフレット等による両市のPRを行いました。

出展団体 水戸市、日立市、鉾田市、茨城町、大洗町、大子町、茨城県アンテナショップ「イバラキセンス」(※常陸太田市、常陸大宮市は、台風19号の影響で、参加ができなくなりました。)



フェアの様子①



フェアの様子②



常陸太田・常陸大宮PRブース

交流センター

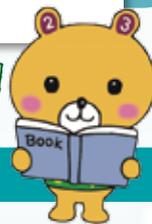
特別区自治情報・交流センターとは？

23区(特別区)と地方自治の専門図書館として約9万6千冊の資料を所蔵しています。特別区や地方自治について知りたい、調べたいときなどにご利用ください。

所蔵資料
蔵出し

おすすめのほんだよ

特別区に関する資料から読み解いてみよう!



▶▶ 「父 渋沢栄一 上下巻(実業之日本社)」

昭和34年3月18日発行(上巻) 4月15日発行(下巻)

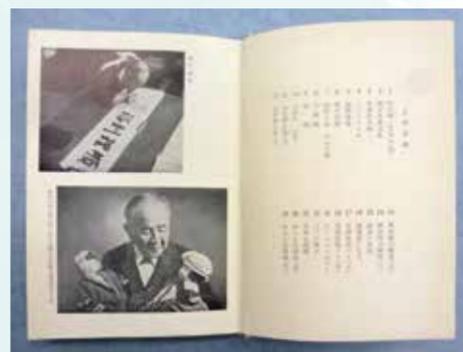
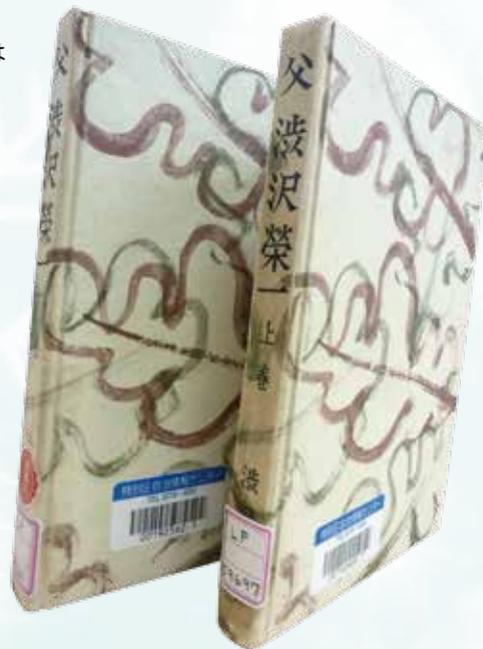
令和6年から新一万円札の顔となる渋沢栄一。近代日本資本主義の父と呼ばれ、生涯に約500の企業と約600の教育機関・社会公共事業に関わりました。本書は子である渋沢秀雄が父栄一を描いています。

高崎城乗っ取り事件

渋沢栄一は天保十一年(西暦1840年)に、現在の埼玉県にあたる武蔵国樺沢郡安部領血洗島村に長男として生まれました。栄一は学問才知があり、弁舌に優れていたため、村に何か事件が起こっても従弟である喜作と共に顔を出せば、必ず話がまとまると本書で描かれるほど、村の中でもリーダー的な存在でした。そんな栄一ですが尊王攘夷派の志士たちと親交を持ち尊王攘夷思想に染まっていきました。そして、栄一たちは大規模な攘夷を行わなければ幕府は倒れないと考え、高崎城を乗っ取り異人館を焼き払って異人を惨殺する計画を企てたのです。しかし、実際には尊王攘夷派にも説得されこの計画は中止となり、栄一は故郷を離れ京都に向かうことになりました。数多くの社会事業にも関わった渋沢栄一ですが、このような激しい一面も持ち合わせていたのです。

文明首都での経験

故郷を離れた栄一は一橋慶喜に仕え一橋家の家政の改善などに実力を発揮するなど、次第に認められていきました。その後、将軍となった徳川慶喜の実弟・徳川昭武に随行しパリの世界万国博覧会を見学するほか西洋諸国の実情を見聞し、先進諸国の内情を広く知っていきました。西洋の発展は栄一の想像を遙かに超えており、パリにある沢山の銀行や会社は大衆の金を集めて大規模な営利事業を営み、その運営が一国の産業を起こしながら利益を生んでいました。これは栄一が日本に帰ってから「合本法」と称して着手した「株式会社」の種本であり、渡仏は栄一の今後の人生に大きな刺激を与えたのです。



日本資本主義の父

栄一は日本に帰り、新政府の大蔵省に仕えましたが、辞職し民間の産業を発達させる仕事に取りかかりました。その手始めが「第一国立銀行」でした。栄一は他に王子製紙や東京海上火災保険など様々な会社設立に関わり、その数は五百件以上といわれ、教育にも力をいれるなど非営利的な事業については約六百件に達しています。また、そのほとんどが単なる関係者ではなく、生みの親、育ての親たる役目を果たしてきました。

渋沢栄一はこのような功績によって「日本資本主義の父」と称されるようになったのです。



★これらの古い資料は実際に手にとって閲覧いただけます。興味のある方はお気軽にカウンターまでお声がけください。

普段とは違う視点から見た23区、
知ればもっと面白い!

クマなく さんぽ



大田区

勝海舟が愛した洗足池の地に 全国初の勝海舟記念館が誕生 「大田区立勝海舟記念館」

昨年9月、国登録有形文化財である「旧清明文庫」を増改築し、全国初の勝海舟記念館として開館しました。勝海舟の功績や大田区との縁を紹介するとともに、海舟の想いと地域の歴史を伝えます。

勝海舟ゆかりの地・大田区

蒸気軍艦・咸臨丸で渡米し、日本海軍の育成に努め、江戸城を無血開城に導いた勝海舟は、開明的な考えを持った幕末の幕臣として広く知られている人物です。海舟は、江戸無血開城前最後の会談に向かう途中に立ち寄った洗足池の風景を気に入り、明治時代に池の畔に別荘「洗足軒」を構えました。生前、この地を自らの埋葬の地と決めた海舟は、自らが構想した墓石の下に今も静かに眠っています。

旧清明文庫を海舟の記念館に

海舟没後の1933(昭和8)年、海舟の遺蹟保存と事蹟の顕彰を目的とした「清明文庫」が開館しました。清明文庫の建物は2000(平成12)年に国登録有形文化財となり、2012(平成24)年に大田区の所有となりました。竣工から90年の時を経たこの清明文庫が、昨年、海舟の功績や想いととも地域歴史を伝える「勝海舟記念館」としてオープンしました。

記念館の1階では、海舟が数多く残した言葉を映像と音声で紹介する「海舟ブレイン」、豊富な実物資料とともに海舟の一生を辿る「海舟クロニクル」、咸臨丸の航海をCG映像で体験できる「時の部屋」といった展示を行っています。2階では、当時の造りを復元した「講堂」「旧貴賓室」や、海舟の別荘「洗足軒」などのジオラマ、大型モニターを使った映像作品展示などを観ることができます。

洗足池から海舟に想いを馳せる

海舟の功績や人となりを深く知ることのできる資料展示はもちろんのこと、西洋の建築技法を取り入れた旧清明文庫の建物もまた必見です。外観正面にあるネオゴシックスタイルの4本の柱型や、内部のアール・デコ調の造作など、昭和初期としては最先端の建築でした。

資料展示と歴史的価値の高い建物を観た後は、洗足池公園にある勝海舟夫妻の墓所にも立ち寄ってみてください。墓所の隣には、無血開城への道とともに拓いた西郷隆盛を悼み、海舟が南葛飾郡木下川に建立した「南洲留魂詩碑」も移築されています。海舟が愛した洗足池の風景を観てゆかりの地を巡ることで、勝海舟という人物をより身近に感じることができるかもしれません。



旧清明文庫をリニューアルした外観



別荘「洗足軒」のジオラマ



地球儀を回し操作する「海舟ブレイン」



咸臨丸の航海を紹介する「時の部屋」



↑ 海舟が愛した洗足池



海舟夫妻の墓所→

年に4回(予定)、企画展を開催しています。

テーマ「海舟が見た19世紀の日本と国際社会」

1月16日(木)～4月26日(日)

長崎海軍伝習所の生徒が記したノートや、文久遣欧使節団の写真など、幕末日本と海外とのつながりを伝える貴重な資料の数々を展覧します。

大田区立 勝海舟記念館

所在地 大田区南千束2-3-1
開館時間 10:00～18:00(入館は17:30まで)
休館日 毎週月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始、臨時休館日
入館料 一般300円、小中学生100円、
団体(20名以上)一般240円、小中学生80円、
身体障害者手帳をお持ちの方及び付添の方1名無料
アクセス 東急池上線洗足池駅より徒歩6分
お問合わせ 03-6425-7608



特集

各区の歴史や

墨田区



ココが見どころ

空襲体験者による「東京空襲の体験画」

1945(昭和20)年3月10日の東京大空襲で、墨田区は大きな被害を受けました。すみだ郷土文化資料館では、区内外から東京空襲の体験者による体験画を募り、300点を越える作品を収蔵しています。そのなかから毎年30点ほどの作品を選定し、作者の体験とともに展示しています。

子どもの権利条約採択30周年企画展

「保育のまち すみだ～子育てを支えて1世紀～」開催中～2/11(火・祝)

墨田区の保育の歴史は古く、戦前から続く保育園が今もいくつか存在します。長く続く保育園の歴史を紹介しながら、子どもたちの権利について考えていきます。

墨田区独自の郷土文化を 広く後世に伝えていく

1階には墨田区の歴史やゆかりの人物などを紹介する「すみだのあゆみ」、2階には隅田川の歴史・文化・民俗などに焦点を当てた「隅田川」と、フロア毎にコンセプトを設けた展示を行っています。2階の「近代すみだと隅田川」のコーナーでは、隅田川レガッタの資料と東京大空襲の体験画の資料を一定期間で入れ替えながら展示しています。



すみだ郷土文化資料館

所在地 墨田区向島2-3-5
開館時間 9:00～17:00(入館は16:30まで)
休館日 月曜日(祝日の場合は翌日)、毎月第4火曜日、12/29～1/2、その他臨時休館あり
入館料 一般100円、中学生以下・障害者手帳をお持ちの方は無料
アクセス 東武線とうきょうスカイツリー駅より徒歩7分
お問合わせ 03-5619-7034



プラネタリウムを併設した 中央区の郷土天文館

常設展示は、江戸城下の成り立ちや日本橋と魚河岸、蘭学と築地居留地、銀座の繁栄ほか7つのテーマで構成され、映像コーナーでは、築地小劇場や幻の万国博覧会など6つのオリジナル作品が随時上映されています。26,000件におよぶ収蔵資料をインターネットで閲覧できるようにした収蔵品アーカイブズ(<https://www.chuo-museum.jp>)は、多くのひとに利用されています。



タイムドーム明石(中央区郷土天文館)

所在地 中央区明石町12-1 中央区保健所等複合施設6階
開館時間 火～金曜日10:00～19:00、土日祝～17:00
(入館は閉館30分前まで)
休館日 月曜日(祝日の場合は翌日)、12/29～1/4
入館料 常設展示室100円、プラネタリウム300円、いずれも未就学児・区内小中学生は無料
アクセス 地下鉄日比谷線築地駅より徒歩7分
お問合わせ 03-3546-5537



中央区



ココが見どころ

戦前の月島で開催予定だった「幻の万博」

1940(昭和15)年に月島で開催予定だった「紀元2600年記念日本万国博覧会」。戦争のあおりを受け開催延期となったままのこの万博の、ポスターやパンフレットなどを展示しています。戦後に開催された大阪万博と愛知万博でも使うことができた前売入場券も閲覧できます。

【考古学企画展】(予定)2/8(土)～3/22(日)

中央区で出土した新しい発掘の成果を、出土資料を中心に展示します。

【資料調査報告会】(予定)3/7(土)「日本橋金中問屋市田善兵衛家と東北地方」

場所:中央区保健所等複合施設5階(視聴覚ホール) ※資料展示は6階
NPO歴史資料継承機構と共同整理した市田善兵衛家文書の調査報告会を行います。

文化を知ろう!



重要文化財の敷地に建つ 都内最古の郷土博物館

世田谷区立郷土資料館は、1964(昭和39)年に、都内初の公立地域博物館として開館しました。重要文化財に指定された世田谷代官屋敷(大場代官屋敷)の敷地内にある同館の設計は、日本近代建築の歴史に大きな足跡を残した建築家・前川國男氏によるものです。常設展示では、世田谷の原始から現代までの歴史と文化をテーマに、収蔵資料を公開しています。



世田谷区立郷土資料館

所在地 世田谷区世田谷1-29-18
開館時間 9:00 ~ 17:00(入館は16:30まで)
休館日 月曜日、祝日(祝日と重なる場合は翌日も)、
12/29 ~ 1/3
入館料 無料
アクセス 東急世田谷線「上町駅」より徒歩5分
お問い合わせ 電話03-3429-4237
FAX03-3429-4925



世田谷区

ココが
見どころ

ポロ市とそれを見廻る代官行列の模型

今もたくさんの人で賑わう「世田谷ポロ市」の始まりは、440年前の戦国時代に遡ります。世田谷城の城下町である世田谷新宿で「楽市」として始まり形を変えながら、いつからかポロ市と呼ばれるようになり今も存続しています。模型は、江戸時代の市町見廻りを勤める代官行列です。

季節展「ポロ市の歴史」 開催中～1/26(日)

毎年12月と1月の15・16日に開催される「世田谷のポロ市」。1578(天正6)年に北条氏政の「楽市掟書」により始まった「世田谷のポロ市」の歴史を紹介します。

千代田区



ココが
見どころ

バーチャル侍による江戸城の儀式案内

千代田区といえば江戸城が存在した地ということで、徳川家康・秀忠・家光の将軍三代の江戸城築城と、城下の整備を解説するコーナーを設けています。デジタル技術を駆使したバーチャル侍による、江戸城の築城と大名登城、将軍の任命についての映像解説は人気の展示です。

特別展「江戸の人びと、本をたしなむ」

1/18(土)～3/8(日) ※開催時間は開館時間と異なります。

蔵書家齋藤吉之氏が神保町の本屋街などで収集した「齋藤家コレクション」から和本を中心に多数出展し、江戸時代に浸透した読書・出版文化を紹介します。

公園にある「知の拠点」で 千代田区の歴史を学ぶ

図書館や学びの場、ミュージアムが一体となった複合文化施設「日比谷図書文化館」。ミュージアムの常設展示では、発掘された暮らしと環境、日比谷入江と中世千代田、将軍の城づくり、江戸から東京へ、まちの歴史のテーマ別に、千代田区の歴史を紹介しています。常設展示見学後に知りたくなったことは、併設の図書フロアで調べることができます。



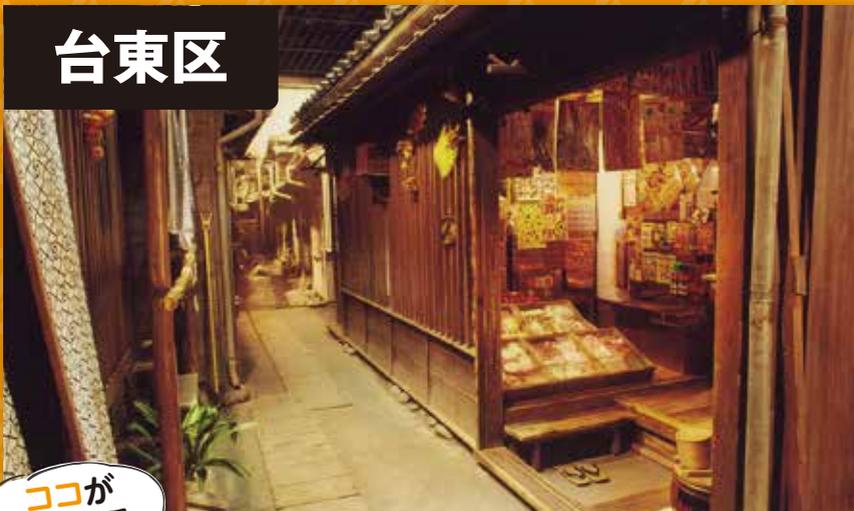
日比谷図書文化館

所在地 千代田区日比谷公園1-4
開館時間 月～金10:00～22:00
土10:00～19:00、日・祝10:00～17:00
第3月曜日、12/29～1/3、特別整理期間
休館日
入館料 無料
アクセス 東京メトロ丸ノ内線・日比谷線霞ヶ関駅
より徒歩3分
お問い合わせ 03-3502-3340(代表)



23区には魅力あふれる歴史と文化が盛りだくさん。
 今回は墨田区・世田谷区・台東区・中央区・千代田区・豊島区の
 計6区を特集するよ。

台東区



ココが
見どころ

大正時代の下町と庶民の暮らしを再現

江戸の風情をとどめる大正時代の下町の一角を、部屋の細部にまでこだわりリアルに再現しています。花緒の製造卸問屋と、駄菓子屋、銅壺職人の一家が住む長屋は、部屋に上がって寄贈品である当時の調度品や生活道具に触れることができ、古き良き時代を体験することができます。

特別展「江戸風俗人形」の世界 ～建物・人形・小物の三昧一体の妙～
 開催中～2/24(月・祝)

三浦宏、辻村寿三郎、服部一郎の3人の作家が、それぞれ人形、建物、小道具を製作し、吉原の遊郭の様子を再現した作品を展示。細かな細工に目を奪われます。

下町の庶民の暮らしを見て触れて体験できる

1980(昭和55)年、古き良き下町の文化を多くのひとに知ってもらい、後世に伝えることを目的に開館した下町風俗資料館。「江戸の風情が残る大正時代の下町」の再現展示は、見て触れることができ、タイムスリップ気分を味わうことができます。2階にある、昭和の暮らし再現や、実際に座ることのできる銭湯の番台も人気の展示です。



台東区立下町風俗資料館

所在地	台東区上野公園2-1
開館時間	9:30～16:30(入館は16:00まで)
休館日	月曜日(祝日と重なる場合は翌平日)、12/29～1/1、特別整理期間等
入館料	一般300円、小・中・高校生100円 ※障害者手帳をお持ちの方と付添いの方は無料
アクセス	JR上野駅より徒歩5分
お問い合わせ	03-3823-7451



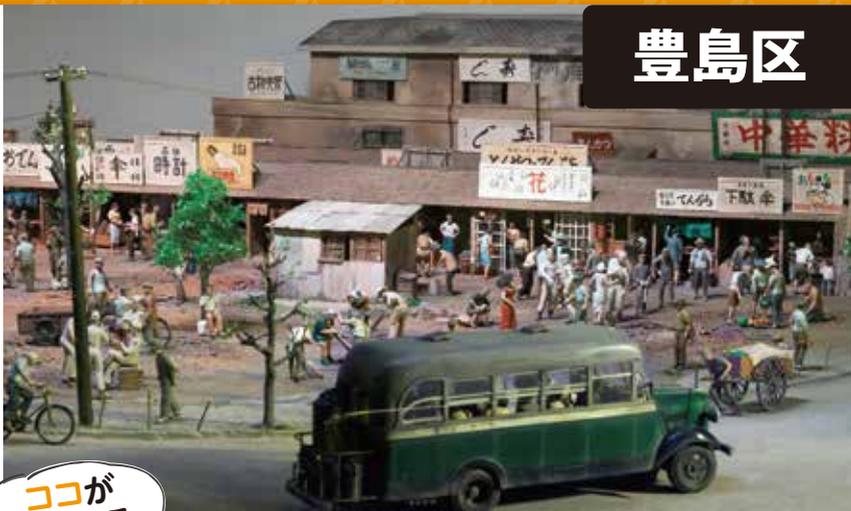
約3万年前から現代まで 豊島区域の歴史を紹介

「豊島台・本郷台に生きる～ひと・景観・暮らし～」をテーマに、豊島区のあゆみ通史的に紹介しています。展示スペースはコンパクトですが、区内千早地域の地層剥ぎ取り標本から始まり、弥生土器、江戸の園芸文化、昭和初期に誕生した長崎アトリエ村(アトリエ付貸家群)模型、戦後のヤミ市模型など見どころ満載です。



豊島区立郷土資料館

所在地	豊島区西池袋2-37-4 としま産業振興プラザ(IKE・Biz)7階
開館時間	9:00～16:30
休館日	月曜日(祝日と重なる場合は翌日も)、第3日曜日、祝日、年末年始、展示替え等に伴う臨時休館
観覧料	無料
アクセス	JR池袋駅西口より徒歩7分
お問い合わせ	03-3980-2351



豊島区

ココが
見どころ

戦後の豊島区復興の原点「池袋ヤミ市」

戦後、焼け跡の駅前には露天商や長屋式のマーケットが作られます。その多くは商品をヤミ取引で売っていたため「ヤミ市」と呼ばれ、1947(昭和22)年5月には池袋駅の東西に1,200軒もの店が軒を連ねていました。展示室の一角には、池袋ヤミ市の一部を縮尺20分の1で精巧に再現した模型が展示されています。

展示見どころ解説

1/25(土)、2/22(土)、3/28(土) 14:00～(40分程度) ※事前申し込み不要

常設展示の見どころを学芸員がわかりやすく解説します。展示資料の説明文には書かれていないエピソードなどを交えた解説のため、見学の面白さが倍増します。

特別区自治情報・交流センターからのご案内

特別区自治情報・交流センターでは、様々な講座や企画を開催しています。ぜひご参加ください。

※講座や企画の詳細は(公財)特別区協議会ホームページ(HP)をご覧ください。

東京区政会館1階展示スペース

東京区政会館1階エントランスホールで各種展示を行っています。

どなたでも自由にご覧いただけます。

開催時間 平日|9:00～20:30 土曜日|9:00～17:00 日曜日・祝日|休館

(公財)特別区協議会HP <http://www.tokyo-23city.or.jp/>

**特別区全国連携プロジェクト
令和元年度第2回 全国連携展示
(奈良県町村)**

**「世界遺産にふれ
日本始まりの地 奈良をめぐる」**

主催 特別区長会
(公財)特別区協議会

日時 令和2年1月7日(火)
～2月13日(木)

■奈良県の特産品の販売をします■

日時 令和2年1月23日(木)午前11時～午後3時

場所 東京区政会館1階エントランスホール



特別区自治情報・交流センター(4階)休館のお知らせ

年末年始及び蔵書点検のため、下記の期間は休館とさせていただきます。休館中は資料の貸出予約と返却を中止いたします。

ご不便をおかけしますが、利用者の皆さまには、ご理解のほどお願い申し上げます。

休館期間

▶年末年始休館

令和元年12月28日(土)～令和2年1月5日(日)

▶蔵書点検に伴う休館

令和2年1月20日(月)～26日(日)

問合せ先 03(5210)9051



編集後記

「各区の歴史や文化を知ろう!」をテーマに各区の歴史や文化を展示紹介している施設を案内している特集も今回で3回目になります。

特別区協議会ホームページでは、過去の「One23」を見ることができます。過去2号で紹介した施設(12施設)については、(公財)特別区協議会のホームページから、バックナンバーをご覧ください。(K、K&H)

特別区自治情報・交流センター

千代田区飯田橋3-5-1 東京区政会館

開館時間:(4階)9:30～20:30

(土曜日は9:30～17:00)

休館日:日曜日、祝日、年末年始等

One23に掲載されている各種資料等の情報はコチラ

<http://www.research.tokyo-23city.or.jp/>



東京メトロ 東西線 飯田橋駅 A5出口すぐ
東京メトロ 有楽町線 飯田橋駅 A2出口徒歩2分
東京メトロ 南北線 飯田橋駅 A2出口徒歩2分
都営地下鉄 大江戸線 飯田橋駅 A2出口徒歩2分
JR中央・総武線 飯田橋駅 東口徒歩5分